

2022年5月10日

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

大澤 博隆 (筑波大学 システム情報系 助教)

2. 課題名

責任ある研究とイノベーションを促進する SF プロトタイピング手法の企画調査

3. 実施期間

2021(令和3)年10月1日 ~ 2022(令和4)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、サイエンスフィクション (SF) に基づく SF プロトタイピング手法を対象とし、責任ある研究・イノベーションを生み出す手法としてのプロトタイプの開発と試行、ならびにその手法が新興科学技術の ELSI/RRI の取り組みに対してどのような影響をもたらさうかを明らかにすることを目標として実施されたものである。本プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、ELSI/RRI 研究としてのフレームや対象設定の検討、手法としての有効性・合理性の実践的検証と課題の同定、研究構想に即した実施体制の強化などの点を期待した。

企画調査の結果、オンラインで実施可能なファシリテーションシステムやアプリケーションの開発も行いながら、具体的な現場と連携した試行や、国内外の広範な作品調査を通じて SF プロトタイピングの適用フィールドの探索が進んでおり、本企画調査の目標は、一部残る課題はあるが概ね達成したと評価する。

企画調査を通じて、上述のように、SF プロトタイピングという手法の確立に寄与し得る結果が得られているものの、それが新興科学技術の ELSI/RRI の取り組みにどのような形で貢献するのか、その展望については明確ではなく、具体的な研究開発構想の基盤となる議論の構築は、準備の初期段階にあると思われる。手法の持つ問題点の分析も行った上で、SF プロトタイピングと ELSI/RRI との関わりを明確にするアプローチの検討、研究開発の先に見据えるビジョンの具体化に取り組み、手法の特性を生かした研究開発構想につながることを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は 2022 年 3 月末時点)